

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成22年9月2日(2010.9.2)

【公開番号】特開2009-225809(P2009-225809A)

【公開日】平成21年10月8日(2009.10.8)

【年通号数】公開・登録公報2009-040

【出願番号】特願2009-162261(P2009-162261)

【国際特許分類】

C 1 2 N 7/04 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 39/12 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 7/04 Z N A

C 1 2 N 15/00 A

A 6 1 K 39/12

A 6 1 P 31/12

【手続補正書】

【提出日】平成22年7月8日(2010.7.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

日本脳炎ウイルス群に属するウイルスの感染細胞培養物から調製された不活化ウイルス粒子であって、該不活化ウイルス粒子は、細胞培養物を不活化および物理的手段によってのみ精製する工程を含むプロセスによって調製され、

ここで、該ウイルス粒子で免疫して得られる抗血清中の中和抗体価が、マウス脳内で培養されたウイルスから化学的な精製および不活化により調製された不活化ウイルス粒子で免疫して得られる抗血清中の中和抗体価の約 2 倍～約 10 倍である、増強免疫原としての不活化ウイルス粒子。

【請求項 2】

不活化ウイルス粒子を製造する方法であって、該方法は、

日本脳炎ウイルス群に属するウイルスを細胞株で培養する工程、ならびに

細胞培養物を不活化および物理的手段によってのみ精製する工程を含み、

ここで、該ウイルス粒子で免疫して得られる抗血清中の中和抗体価が、マウス脳内で培養されたウイルスから化学的な精製および不活化により調製された不活化ウイルス粒子で免疫して得られる抗血清中の中和抗体価の約 2 倍～約 10 倍である、
方法。

【請求項 3】

前記細胞株が V e r o 細胞である、請求項 2 に記載の製造方法。

【請求項 4】

前記不活化が約 4 ～約 10 で行われる、請求項 2 に記載の製造方法。

【請求項 5】

前記日本脳炎ウイルス群に属するウイルスが日本脳炎ウイルスの北京株または T h C M A r 6 7 / 9 3 株である請求項 2 に記載の製造方法。

【請求項 6】

請求項 1 に記載の不活化ウイルス粒子を含む不活化ワクチン。

【請求項 7】

請求項 1 に記載の不活化ウイルス粒子を抗原として含む、日本脳炎ウイルス群感染症の診断剤。

【請求項 8】

前記不活化が約 4 ～ 約 10 で行われる、請求項 1 に記載の不活化ウイルス粒子。

【請求項 9】

前記細胞株が V e r o 細胞である、請求項 1 に記載の不活化ウイルス粒子。

【請求項 10】

前記日本脳炎ウイルス群に属するウイルスが日本脳炎ウイルスの北京株または T h C M A r 6 7 / 9 3 株である、請求項 1 に記載の不活化ウイルス粒子。